

中日限定語¹⁾のマーカである“的”と「の」の対照研究

A comparative study of Chinese attributive marker “的” and Japanese attributive marker 「の」

劉 燕嵐

0. はじめに

中国語の限定語は修飾語の一つである。フレーズの中では、限定語は名詞を修飾するのに用いる。動詞や形容詞が文中で主語あるいは目的語になる時も、その修飾語は限定語であることも可能である。中国語の限定語の後にはよく構造助詞“的”を伴う。この“的”は限定語の形式上のマーカである。これに対し、日本語の中で、格助詞「の」がよく用いられ、連体修飾関係を構成する。一般的には、“的”と「の」が対応する場合が多い。例えば、

- | | |
|-------------------|-------|
| (1) 私 <u>の</u> 友達 | 我的朋友 |
| 北京 <u>の</u> 秋 | 北京的秋天 |
| 佐藤さん <u>の</u> 本 | 佐藤的书 |

(1) では、“的”が「の」ときれいに対応しているが、次の例もある。

- | | |
|-------------------|---------|
| (2) 一冊 <u>の</u> 本 | 一本书 |
| 私 <u>の</u> 十年前の写真 | 我十年前的照片 |
| 体育 <u>の</u> 先生 | 体育老师 |
| (3) 新しい洋服 | 新的西服 |

静かな教室	安静的教室
信頼する人	信赖的人

(2) と (3) の用例から、“的” と「の」が完全に対応していない場合もあることがわかる。(2) では「の」が付加されているにもかかわらず、中国語では“的”は使わない。(3) ではこれとは逆に「の」が付加されていないにもかかわらず、中国語では“的”が付加される。つまり、中国語の限定語から言うと、すべての限定語に“的”を伴うわけではないし、すべての日本語の限定語に「の」を伴うわけでもないのである。これは限定語になる語句の性質と意味など使用条件にかかわるものである。本稿では、限定語のマーカである“的”と「の」について、両者がどのように対応するかを考察する。

1. 先行研究

1.1 “的”に関する先行研究

1.1.1 朱徳熙(1982)《语法讲义》

朱徳熙(1982:pp. 142 - 144)は限定語の標識“的”について、次のように述べている。

[1] 人称代詞が所属性限定語になる場合、中心語が親族呼称を表す名詞であれば、一般に“的”は用いられない。たとえば、“我哥哥(私の兄)²⁾”“他父亲(彼の父親)”。中心語が普通名詞の場合、単独での発話であれば、“的”が用いられなければならない。例えば、“你的眼镜(君のメガネ)”“我的手套(私の手袋)”。しかし、文中に用いられる場合には“的”を使わなくてもよい。例えば、

(4) 你眼镜呢?(君のメガネは?)

我手套丢了。(私の手袋がなくなった。)

名詞が所属性限定語になる場合にも類似する状況がある。例えば、

(5) 孩子的衣服——把孩子衣服撕破了。

(子供の服——子供の服を引き裂いてしまった。)

中心語の前に指示代詞がある時、“的”を使わないことのほうが“的”

を使うよりも一般的である。例えば、“我这支笔（私のこのペン）”“他那件大衣（彼のあのオーバー）”。

[2] “这、那、哪”が量詞を伴ってそのまま名詞を修飾するときは指示を表すが、“的”が加わると所属関係を表す。次の例を比較してみよう。

- (6) 这本书——这本的封面（この本——この本の表紙）
 哪个孩子——哪个的孩子（どの子供——どれの子供）

[3] 名詞と属性形容詞が名詞を修飾する場合、“的”を使う形と“的”を使わない形の二種の形式がある。例えば、

- (7) 木头房子——木头的房子（木造家屋——木の家）
 旧书——旧的书（古本——古い本）

この二つの定中構造は構造が異なり、意味も違う。まず、“的”を使わない形では、限定語と中心語が緊密に結びつき、意味上ひとつのまとまりになる。逆に、“的”を使う形では、限定語と中心語が臨時的に組み合わせられ、意味上の独立性が比較的高く保たれている。

次に、限定語が名詞である場合、二つの形で表す意味が異なることがある。例えば、

- (8) 他有很多中国朋友——巴基斯坦是中国的朋友
 （彼には中国人の友達がたくさんいる——パキスタンは中国の友達である）
 露出了狐狸尾巴——狐狸的尾巴很大
 （狐のしっぽを現わした——狐のしっぽは大きい）

以上の例は、“的”を使わない形は属性を表す。“的”を使う形は所属関係を表す。

[4] 名詞性成分が“的”を伴って限定語になる場合でも属性を表すことがある。例えば、

- (9) 电子管的电视机（真空管のテレビ）
 黄头发的孩子（金髪の子供）

数量名構造が限定語になる場合も属性を表すことがある。例えば、

- (10) { 三个孩子的母亲都来了（所属）（三人の子供たちの母親が来た）
 { 她已经是三个孩子的母亲了（属性）（彼女はもう三児の母親である）

1.1.2 北大中文系现代汉语教研室編（1993）《现代汉语》

北大中文系现代汉语教研室編の《现代汉语》（1993:pp. 331 - 333）は、中国語の限定語のマーカである“的”の用法について、次のように述べている。

[1] 名詞が限定語となる

“的”を使わず、直接中心語と結びつく場合、限定語と中心語は一つの安定したまとまりとなる。“的”を使う場合、限定語と中心語は臨時的な組み合わせであり、それぞれの独立性を持つ。

以上の規則は一般状況である。実際には、ある形式においては、“的”を省略することができない。たとえば、“书的内容（本の内容）”“车的速度（車の速度）”。また、ある形式においては、“的”を使うか使わないかによって、意味が違う。たとえば、

- | | |
|---------------|------------------|
| (11) 甲 | 乙 |
| 谁是日本的朋友？ | 我有两个日本朋友。 |
| (誰が日本の友人であるか？ | 私には日本人の友人が二人いる。) |

甲の例文では、限定語が所属関係を表す。「誰のものであるか」を明示する。乙の例文では、限定語が事物の性質を表す。「どのようなか」を明示する。

[2] 人称代詞が限定語になる

人称代詞が限定語になる場合、中心語が親族呼称とか団体、機構の名称であるならば、人称代詞の後に通常“的”をつけない。例えば、“我哥哥（私の兄）”“咱们家（私たちの家）”“我们学校（私たちの学校）”。

もし、中心語の前に指示代詞があれば、“的”を使わないほうが一般的である。例えば、“我这衣服（私のこの服）”“他那几本书（彼のその何冊かの本）”。

[3] 数量詞が限定語になる

数量詞が限定語になると、後に“的”を伴わないのが一般的である。例えば、“三个人（三人）”“五件衣服（五着の服）”。

[4] 形容詞が限定語になる

単音節形容詞が限定語になる時は、“的”を使わず、直接名詞を修飾する。例えば、“新书（新しい本）”“酸苹果（酸っぱいリンゴ）”。ただし、限定語が表わす属性を強調するために、“的”をつけることも可能である。例えば、“新的书（新しい本）”。

二音節形容詞が限定語になる時、通常“的”を使う状況が多いが、ある固定した形式においては“的”は使えない。例えば、“老实人（まじめな人）”“要紧事（緊要なこと）”。

状態形容詞は“的”をつけて自由に限定語になることができる。例えば、“高高的个儿（高い背）”“干干净净的房间（きれいな部屋）”“雪白的手套（真っ白な手袋）”。“的”をつけない状態形容詞は通常数量名構造を修飾することしかできない。例えば、

(12) 雪白一双鞋（*雪白鞋）（真っ白な一足の靴）

[5] 動詞が限定語になる

単音節動詞が限定語になる場合は、後に“的”が必要である。“的”をつけないと、後の名詞中心語と動目構造になる。例えば、

(13)	定中構造	動目構造
	吃的水果（食べる果物）	吃水果（果物を食べる）
	买的书（買った本）	买书（本を買う）

ある二音節動詞は名詞の性質を兼ね備えている。この種の動詞が限定語になる場合、“的”を使うか否かは、意味上違いがあまりない。例えば、

(14) 学习计划——学习的计划（学習計画——学習の計画）
研究方法——研究的方法（研究方法——研究の方法）

1.2 「の」に関する先行研究

1.2.1 梅棹忠夫・金田一春彦など監修（1995）『日本語大辞典（第二版）』

梅棹忠夫・金田一春彦など監修の『日本語大辞典（第二版）』（1995：pp. 1672 - 1673）によると、現代日本語の「の」の用法を格助詞、終助詞に分けている。

[1] 格助詞

- (1) 連体修飾語を作る。
- (ア) 主語となるものを示す。「川の流れ」「政治家の汚職」
- (イ) 所有・所在・所属などを示す。「私の本」「下の部屋」「銀行の行員」
- (ウ) 種類・属性・材料・数量などを示す。「料理の本」「緑の草原」「鉄板の板」「三本の木」
- (エ) 動作の対象を示す。「子供の教育」「患者の治療」
- (オ) 基準となるものを示す。「橋のたもと」「箱の中身」
- (カ) 同格のものを示す。(…である…)「看護婦の妻」「ビールのよく冷えたやつ」
- (キ) 「よう」「こと」「もの」などに続き、その実質的な内容を表す。「山のようだ」「未来のこと」
- (2) 述語が連用形で下に続くときの、主語または対象の語を示す。「私の書いた手紙」「水の飲みたい人」
- (3) 名詞に準ずる意に用いる。(準体助詞ともいわれる)
- (ア) (連体形で終わる語句、あるいは連体詞について) それ全体に体言の資格を与える。「スターが買い物をしているのを見かけた」
「大きいのがいい」
- (イ) («だ」「です」で受けて) 明確な断定・説明・理由などを表す。「これが最後のチャンスだったのだ」「僕が悪かったのです」
- (ウ) (体言に付いて) …のもの、の意を表す。「これは僕のだ」
- (4) 並列の意を表す。(副助詞または並立助詞とする説もある)「鉛筆だのノートだのを買う」

[2] 終助詞

- (1) 問いの意を表す。「どうするの」
- (2) 断定の気持ちをやわらげて表現するのに用いる。「ええ、そうなのの」

1.2.2 松村明監修(1998)『大辞泉(増補・新装版)』

松村明監修の『大辞泉(増補・新装版)』(1998: pp. 2065 - 2066) によ

ると、現代日本語の「の」の用法を格助詞、終助詞、間投助詞、並立助詞、準体助詞に分けている。

[1] 格助詞

- (1) 連体修飾格として諸種の間係を表す。
 - (ア) 所有。…を持つ。…のものである。「会社の寮」「後徳大寺大臣の寝殿」
 - (イ) 所属。…に属する。…のうちの。「大蔵省の次官」
 - (ウ) 所在。…にある。…にいる。「大阪の友人」
 - (エ) 行為の場所。…における。…での。「異国の生活にも慣れた」
 - (オ) 時。…における。「十月の中旬」「夏の蟬」
 - (カ) 作者・行為者。…の作った。…のした。「校長の話」
 - (キ) 関係・資格。…にあたる。…としての。「友達の田中君」
 - (ク) 性質・状態。…のようすの。…の状態である。「瀕死の重傷」「縦じまのシャツ」
 - (ケ) 材料。…で作った。…を使つての。「木造の家」「葦の御簾」
 - (コ) 名称・人名。…という名の。…という。「富士の山」「三河の国」
 - (サ) 数量・順序。…番目の。「多くの船」「一の皇子」
 - (シ) 対象。…に対する。「反乱軍の鎮圧に成功する」
 - (ス) 目標。…のための。「お祝いのプレゼント」
 - (セ) 比喩。…のような。「花の都」
- (2) 動作・作用・状態の主格を表す。「交通の発達した地方」「花の咲くころ」
- (3) (「ようだ」「からに」「ごとし」「まにまに」などの上に付き) その内容を表す。「綿のような雲」
- (4) 同格を表す。…であつて。「ジュースの冷えたのがほしい」

[2] 終助詞

- (1) (下降調のイントネーションを伴つて) 断定の言い方を和らげる意を表す。多く、女性が使用する。「伺いたいことがあるの」
- (2) (上昇調のイントネーションを伴つて) 質問または疑問の意を表す。

「君は行かないの」「なぜなの」

(3) 強く決めつけて命令する意を表す。「余計なことを言わないの」

(4) 念を押すような気持ちで、詠嘆・感動の意を表す。「仲が良いことだの」

[3] 間投助詞

文節の切れ目に付く。語勢を添える意を表す。

[4] 並立助詞

(1) 並列・列挙を表す。…だの…だの。「行くの行かないのとごねる」

(2) (「の…ないの」の形で用い、「の」「ないの」のそれぞれ前に同じ形容詞を伴って) 程度がはなはだしい意を表す。「痛いの痛くないのって涙が出てきたよ」

[5] 準体助詞

(1) (体言に付いて) 下の名詞を表現せず、「のもの」「のこと」の意を表す。「この本、君のだろう」「自分のには記名しておく」

(2) (活用語に付いて) その語を名詞と同じ資格にすることを表す。「読むのが早い」

2. 限定語のマーカ―としての“的”と「の」の対応状況

2.1 名詞が限定語になる場合

2.1.1 両言語ともマーカ―を使用する

中日両言語がともに限定語マーカ―を使用する状況は次の表1のように三種類に分けられる。

意味	中国語の例	日本語の例
所属先	小王 <u>的</u> 书 日语系的老师	王さん <u>の</u> 本 日本語学部の先生
存在場所	北京 <u>的</u> 秋天 车站前 <u>的</u> 店	北京 <u>の</u> 秋 駅前 <u>の</u> 店
発生時間	昨天 <u>的</u> 报纸 冬天 <u>的</u> 北海道	昨日 <u>の</u> 新聞 冬 <u>の</u> 北海道

(表1. 名詞が限定語になる場合両言語ともマーカ―を使用する場合の対照表)

表1を見ると、事物の所属先、存在位置、発生時間の意味を表すとき、中日両言語は限定語のマーカ―をとともに使わなければならないことがわかる。両言語の限定語が表わす所属先、存在場所、発生時間は中心語となる事物の外部状態を記述し、その事物の内部属性と関わりはないので、限定語と中心語は意味上緊密な関係を持ってない。そこで限定語と中心語が普通の「定中構造」³⁾を構成し、修飾の関係を明示する標識が必要である。したがって、限定語と中心語のこの非緊密な関係を形に反映すると、限定語と中心語の間に限定語のマーカ―「の」または“的”をつけることになる。

2.1.2 両言語ともマーカ―を使用しない

固定的な語句においては、中日両言語ともマーカ―を使用しない。例えば、

(15) 東京大学	東京大学
北京時間	北京時間
クリミア危機	クリミア危機
发展中国家	発展途上国

(15)は中日両言語ともに限定語マーカ―を使わず、固定的な形として捉えられる。これら語句の中に、「の」あるいは“的”を入れると、形式上は成立するが、意味が変る。例えば、日本語では「東京大学」は固有名詞であり、1877年設置され、日本東京都文京区本郷に本部を置くひとつの日本の国立大学のことを指している。「の」を加え「東京の大学」になると、東京にあるすべての大学を広く一般に指している。中国語では、“东京大学”と“东京的大学”は同じように、前者が特定指示であり、後者が一般指示である。

以上のように両言語ともに限定語マーカ―を使わない例は、通常固有語句として取り扱い、新聞記事やテレビ番組などによく見られる。これらの語句は固定したものであり、長期間にわたる言語使用の中で形成されたもので、個人が勝手に作ってよいものではない。また、この種の連語は固有

語句であり、客観世界に存在する特定・専門の概念に対応することができ、内部の意味の関わりも緊密であるので、中国語でも日本語でも限定語マーカーは必要ではなく、特定指示の意を表す。もし、これらの固有語句の中に「の」あるいは“的”を入れると、意味は変わり、一般指示の意を表すことになる。

2.1.3 「の」を使用し、“的”を使用しない

まず、限定語になる名詞と中心語になる名詞とが全体と部分の関係を表す時、中国語では“的”が使われず、日本語では「の」が使われている。たとえば、

- | | |
|---------|----------------|
| (16) 山脚 | 山 <u>の</u> ふもと |
| 脚后跟 | 足 <u>の</u> 踵 |
| 墙角 | 壁 <u>の</u> 角 |

次に、限定語になる名詞が中心語になる名詞の素材・材料を表す場合、日本語では「の」を加え、中国語では“的”を加えないのが普通である⁴⁾。例えば、

- | | |
|----------|------------------|
| (17) 金戒指 | 金 <u>の</u> 指輪 |
| 玻璃杯 | ガラス <u>の</u> コップ |

また、限定語になる名詞が中心語になる名詞の内容・中身・職業を表す場合、日本語では「の」が出現し、中国語では“的”が出現しない⁵⁾。例えば、

- | | |
|-----------|-----------------|
| (18) 日语老师 | 日本語 <u>の</u> 先生 |
| 语法书 | 文法 <u>の</u> 本 |

最後に、限定語になる名詞と中心語になる名詞とが同格関係である場合、日本語では「の」をつけるが、中国語では“的”をつけない。例えば、

- | | |
|-----------|----------------|
| (19) 朋友田中 | 友達 <u>の</u> 田中 |
|-----------|----------------|

2.2 代詞が限定語になる場合

2.2.1 人称代詞が限定語になる

人称代詞が限定語になり、所属関係を表す場合、中国語と日本語両方ともに限定語マーカーが必要である⁶⁾。例えば、

- (20) 我的书 私の本
 他的手表 彼の時計

もし中心語が人に対する呼称とか団体・機構の名称であるならば、中国語では人称代詞の後に“的”をつけないが、日本語では「の」をつける。

- (21) 你姐姐是昨天来的吗? 君のお姉さんは昨日来たのか。
 我想谈谈我们国家的情况。 私は我々の国の状況を話そうと思う。

2.2.2 指示代詞⁷⁾が限定語になる

まず、指示代詞が場所を指示するとき、中国語では通常“的”を使い、日本語では「の」を使わなければならない。例えば、

- (22) 这里的人们 ここの人々
 那边的书架 そこの本棚

次に、指示代詞が方向を指示するとき、日本語では必ず「の」を使わないといけないが、中国語では“的”を伴う状況が多い。例えば、

- (23) 那边的柜子 そちらの戸棚
 这边的观众 こちらの観衆

時には中国語では“的”を使っても使わなくともよい。例えば、

- (24) 从岸(的)这边游到岸(的)那边。
 こちらの岸からあちらの岸まで泳ぐ。

2.2.3 疑問代詞が限定語になる場合

中日両言語の疑問代詞は疑問対象の違いによって、次の表2のように六種類に分けられる。

疑問の対象	中国語の疑問代詞	日本語の疑問代詞
人	谁	だれ
事物	什么	何
場所	哪儿、哪里	どこ
時間	什么时候	いつ
性質・状態・程度	怎样、怎么样	どんな
数量・金額・距離	几、多少	どのぐらい

(表 2. 中日両言語の疑問代詞の分類表)

人を問う疑問代詞が限定語になる場合、中国語では疑問代詞“谁”の後に“的”が必要である。日本語でも「だれ」の後に「の」が必要である。例えば、

(25) 谁的书? だれの本ですか。

事物に対する疑問代詞が限定語になる場合、中国語では疑問代詞“什么”の後に“的”を加えないが、日本語では疑問代詞「何」の後に「の」が必要である。例えば、

(26) 那是什么书? それは何の本ですか。

場所を問う疑問代詞が限定語になる時は、中国語でも日本語でも中心語の前に限定語マーカーを用いる。

(27) 这是哪里的车? これはどこの車ですか。

時間を質問の対象とする疑問代詞が限定語になる時は、中国語も日本語も両方とも限定語マーカーが必要である。例えば、

(28) 这是什么时候的报纸。 これはいつの新聞ですか。

性質・状態・程度などを問うときに、中国語では“怎样”または“怎么样”を使い、後に“的” + “一” + 量詞を加えて限定語になる。「一」 + 量詞を省略することができる。日本語では、疑問代詞「どんな」の後に「の」を使わず、直接中心語を修飾する。例えば、

(29) 他是怎样的(一个)人? 彼はどんな人ですか?

我过的是怎么样的(一种)生活? 僕がどんな暮らしをしていたか?

数量、金額、距離などを問う時、中国語では“几”“多少”のような疑

問代詞を使い、日本語では「何」のような疑問代詞が使われる。どの場合も両言語は限定語マーカを使用しない。次の例を見られたい。

- (30) 你有几辆车? 君は車が何台あるか。
 这个学校有多少个学生? この学校には学生が何人いるか。

2.3 数量詞が限定語になる場合

中国語では数量詞が限定語になり、限定作用を持つ場合、後に“的”は使えない。ある数量詞は強調や対比を表す場合、“的”をつけることが可能になる。日本語では数量関係を表す時、必ず数量詞の後に「の」を加える。たとえば、

- (31) 一支笔 一本のペン
 两本书 二冊の本
 三年的时间 (強調) 三年の時間

百分比が限定語になる場合、中国語も日本語も限定語の後に限定語マーカを使うことが一般的である。例えば、

- (32) 百分之六十的学生考上了大学。
 60パーセントの学生が大学入学試験に合格した。

2.4 動詞が限定語になる場合

中国語では動詞が限定語になる場合、通常“的”が必要であるのに対し、日本語では動詞が限定語になる場合「の」を使わず、直接に動詞の連体形を使って中心語を修飾する。例えば、

- (33) 这是我学习的大学。
 ここは私が勉強している大学である。
 这是新出版的杂志, 你看吗?
 これは新しく出た雑誌だけど、読みますか。

ただし、中国語では、いくつかの動詞は名詞を修飾することがあり、且つそれが動目構造になると、誤解される恐れのない場合は、動詞と名詞の間に通常“的”を入れない。例えば、

- (34) 远远地就听见一片欢笑声。 遠くから笑う声が聞こえた。
大家提出了很多改进意见。 みんなは改善する提案をたくさん提出した。

2.5 形容詞が限定語になる場合

日本語の形容詞は活用の型の違いに応じてイ形容詞とナ形容詞の二種類に分かれる。イ形容詞は「寒い、早い、美しい」のような名詞を修飾するとき「い」の形になる形容詞である。ナ形容詞は「静か、便利、すてき」などのような名詞を修飾するときには「な」の形になる形容詞である。形容詞が限定語になる場合、イ形容詞であってもナ形容詞であっても、どの場合もその形容詞の連体形が直接中心語にかかっているだけで、いったい「の」が使われない。

一方、中国語の形容詞が限定語になる時、後に“的”を使うか否かは主に音節数に関わる。単音節形容詞が限定語になる場合、後に“的”は使えない。ある形容詞は強調と対比を表すために、“的”をつけることもある。例えば、

- (35) 好朋友 仲の良い友達
红花 赤い花

这个重的箱子给我。(強調) こちらの重い箱は私に寄越しなさい。
普通の二音節形容詞が限定語になる場合、通常“的”が必要である。

- (36) 有趣的电影 面白い映画
安静的教室 静かな教室

中国語のある二音節形容詞はある名詞と結びつき、かなり固定した語句を構成する。この場合、限定語になる形容詞の後に“的”を使わないことが多い。これと対応する日本語も「の」を使わない。例えば、

- (37) 关键时刻 肝心な時
老实人 まじめな人
糊涂虫 ばか者

さらに、各種の接辞を伴う形容詞、形容詞の重畳式が限定語になる場合は、後に“的”が必要である。

- | | |
|-------------|--------|
| (38) 白花花の胡子 | 真っ白なひげ |
| 斯斯文文的姑娘 | 優雅な少女 |
| 糊里糊涂的人 | 愚かな人 |

2.6 副詞が限定語になる場合

中国語では一部の副詞を除き、ほとんどの副詞は限定語になることができないが、日本語では副詞が限定語になることが可能である。日本語の副詞が限定語になるのは二つの形がある。

一つは「副詞＋の＋体言」の形である。この形を構成する副詞は主に時間副詞、数量副詞、頻度副詞、順序副詞と一部の程度副詞である。この形に対応する中国語は“的”を使うこともあるし、使わないこともある。例えば、

- | | |
|------------|------------------|
| (39) 曾经的恋人 | かつて <u>の</u> 恋人 |
| 屡屡访问 | たびたび <u>の</u> 訪問 |

もう一つの形は「副詞＋体言」である。この形の限定語になる副詞は程度副詞であり、中心語になる名詞が主に時間名詞、方向名詞、数詞などである。この場合、中国語では“的”を使わないのが一般的である。例えば、

- | | |
|-----------|-------|
| (40) 很久以前 | はるかな昔 |
|-----------|-------|

3. まとめ

以上の説を整理して、限定語マーカとしての、中国語の“的”と日本語の「の」の対応関係まとめると表3になる。

限定語になる品詞	限定語の意味或いは形式	中国語の“的”	日本語の「の」	
名詞	所属先	○	○	
	存在場所	○	○	
	発生時間	○	○	
	固有名詞	×	×	
	全体と部分	×	○	
	素材・材料	×	○	
	内容・中身・職業	×	○	
	同格関係	×	○	
代詞	人称代詞	所属関係	通常○（口語×）	○
		団体・機構	×	○
	指示代詞	場所	○	○
		方向	大部分○（少数×）	○
	疑問代詞	人を問う	○	○
		事物を問う	×	○
		場所・位置を問う	○	○
		時間を問う	○	○
		性質・状態・程度を問う	○	×
	数量・金額・距離などを問う	×	×	
数量詞	数量関係	通常×（強調○）	○	
動詞		○（少数×）	×	
形容詞	中国語の単音節形容詞	×（強調・対比○）	×	
	中国語の二音節	○	×	
	中国語の形容詞の重畳式	○	×	
副詞	日本語の「副詞＋の＋体言」	両方ともある	○	
	日本語の「副詞＋体言」	×	×	

(表3 限定語マーカーとしての“的”と「の」の対応関係対照表)

表3から、名詞や代詞が限定語になる場合、中日両言語の限定語マーカーを用いる状況が相対的に多いが、動詞や形容詞や副詞が限定語になる場合、両言語ともに限定後マーカーを用いる対応状況が少ないことがわかる。

この研究を中国語教育と日本語教育に応用し、中国語学習者と日本語学習者に役立つことを期待している。両言語の限定語マーカーが用いられる

原因や用いられない原因についてはまだ解明していない。この未解明部分を今後の課題としてさらに研究を続けていきたい。

注釈

- 1) 「限定語」は中国語文法における用語であり、日本語文法において「限定語」という用語はない。日本語では、中国語の「限定語」に相当するのは「連体修飾語」である。論述に便利のように、本稿は日本語の「連体修飾語」も中国語と同様に「限定語」と呼ぶことにする。
- 2) 本稿における例文に対する日本語訳は特別明示しない限りすべて筆者訳である。
- 3) 本稿は限定語と中心語が構成する構造を「定中構造」と呼ぶが、従来の研究においては、「偏正構造」と呼ぶこともある。
- 4) ただし、限定語になる名詞が中心語になる名詞の素材・材料を表す場合、中国語では、もし中心語になる名詞が二音節名詞であるならば、“的”を使うことがある。例えば、“玻璃的杯子”“塑料的叉子”。
- 5) 劉月華（2001：478）によると、時には中国語では名詞が限定語になる場合、後に“的”を使うか否かで表される文法関係と意味が異なっている。例えば、
 - (i) a 他是我们的班主任老师。(彼は私たちの担任の先生である。)
 - b 他是我们班主任的老师。(彼は私たちの担任の先生の先生である。)
 (i a) の例文の限定語“班主任”は中心語“老师”の属性を記述するので、「記述性限定語」と呼ぶ。(i b) の例文の限定語“班主任”は中心語“老师”の所属先を表している。
- 6) 劉月華（2001：477）によると、中国語の口語においては、疑問や反語を表す時には、人称代詞の後に“的”を用いなくてもかまわないが、日本語では「の」を省略できない。例えば、
 - (ii) 我书包怎么不见了？ (僕の鞆どうして消えちゃったんだろ。)
 - 你帽子不是戴在头上么？
 (君の帽子はちゃんと頭の上にあるじゃないか。)

7) 李冰 (2008 : 41) によると、中国語の指示代詞と日本語の指示代詞を次の表 A、表 B に分けている。

指示代詞	近指	远指
指別或称代人、事物	这	那
称代处所	这里、这儿	那里、那儿
称代时间	这会儿	那会儿
指别或称代性质、方式、程度	这么、这样、这么样	那么、那样、那么样

(表 A. 中国語の指示代詞の分類表)

指称 词类		近称 (离说话人近, 离听话人远)	中称 (离听话人近, 离说话人远)	远称 (离听话人和说话人都远)	不定称 (用于疑问句)
		事物	これ (这)	それ (那)	あれ (那)
指示代詞	場所	ここ (这里)	そこ (那里)	あそこ (那里)	どこ (哪里)
	方向	こちら (这边) こっち (这边)	そちら (那边) そっち (那边)	あちら (那边) あっち (那边)	どちら (哪一边) どっち (哪一边)

(表 B. 日本語の指示代詞の分類表)

参考文献

- 朱德熙 1982. 『语法讲义』。北京：商务印书馆
- 北大中文系现代汉语教研室编 1993. 『现代汉语』。北京：商务印书馆
- 刘月华等 2001. 『实用现代汉语语法 (增订本)』。北京：商务印书馆
- 陆丙甫 2008. 「再谈汉语“的”和日语“の”的区别」, 『外国语』。2008年5月
- 李冰 2008. 「汉日定语标志“的”与「の」对比分析」, 『云南师范大学学报』。2008年5月
- 贺雅静 2014. 『定语标志“的”与「の」的对比研究』。南昌大学硕士论文
- 梅棹忠夫・金田一春彦・坂倉篤義・日野原重明監修 1995. 『日本語大辞典 (第二版)』。東京：小学館
- 松村明監修 1998. 『大辞泉 (増補・新装版)』。東京：小学館

高橋太郎 2005. 『日本語の文法』。東京：ひつじ書房

日本語教育学会編 2005. 『日本語教育事典（新版）』。東京：大修館書店

日本語文法学会編 2014. 『日本語文法事典』。東京：大修館書店